

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 10月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202585		
法人名	有限会社 再輝堂		
事業所名	グループホーム福寿草		
所在地	広島市安佐南区相田2丁目15-19 (電話) 082-832-7110		
自己評価作成日	平成30年9月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202585-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470202585-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年10月3日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム福寿草は、基本理念（和顔愛語）をモットーに、利用者皆様に笑顔になって頂ける様、又、日々穏やかに過ごして頂ける様、心掛けております。季節感を感じられるケア、花や野菜を手にとって頂いたり、季節の行事等、五感を大切にするケアを実践しております。最後まで口から食事をして頂ける様にと、その人にあった形態での食事を、3食手作りで提供しています。「ここに来て、本当に良かった!」と思っけて頂ける様、職員一同取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ここ最近の特徴的な取組みとして、第一に「一人ひとりの人格の尊重」の深化がある。即ち、利用者に対する言葉かけは常に敬語で、といった画一的な対応はせず、家族的な距離感で思いを持って接するよう配慮している。職員の若返りもあって利用者に対する言葉かけも「和顔愛語」をモットーに否定的な言語は控えるが、祖母と孫の関係に似て寛いだ雰囲気での会話を楽しむため、利用者・家族の要望があれば下の名前で呼ぶ事もある。第二に「本人と共に過ごし支えあう関係」の深化がある。即ち、入浴日を週2回から4回に増やし、1回の人数を半分にして、ゆっくり入浴出来る様に改善した。入浴をコミュニケーションの場としてより意識した改善である。介護の重度化に伴い、捻出した時間をケアの深化に繋げた結果、頸椎損傷により紙おむつで入居となった利用者が布パンツとパッドに改善する等、自立支援に向けたケアにも取り組めた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	朝の申し送り時には「和顔愛語」を確認し、今日も一日笑顔で接する様に、ミニミーティングを行っている。	開設時に代表者が作成した理念を事業所内に掲示し、常に確認出来るようにしている。又、毎日の申し送りでも再確認し理念の徹底を図り、優しい声掛けで接して自然に笑顔が出るような対応を心掛けている。毎月の職員会議で、管理者が理念に沿ったケアの在り方について確認し、実践に繋げる様指導している。	新たな体制に即した理念の周知や実践につき、より深く取り組むことで更なる向上を期待したい。例えば、理念の下に事業所で分り易い具体的な年間行動目標・計画を設定し、定期的に達成度を検証・記録する案等、評価の検証過程を「可視化」することで、職員間の認識を共有化し、理念の深化・定着を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の清掃活動等に参加している。近隣の方にお花や野菜を頂いたり、散歩中に声を掛けて頂いたりしている。ホームだよりを町内会で回覧し、ホームの状況を理解して頂いている。いきいき100才体操にも参加している。	町内会に加入し、管理者が総会に出席したり、町内行事の「清掃活動」等に職員や可能な利用者が参加したり、事業所だよりを町内会の回覧に供して交流を図っている。又、全員で近所にお花見に出掛けたり、利用者と一緒に近所を散歩の際に、近所の方が話しかけたり、時には梅花や野菜・柿等を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方が相談に来られたり、質問などに随時対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、地域包括支援センターの職員さん、町内会の方、家族の方などに出席して頂く様、お願いして意見交換を行っている。	会議は利用者・家族が毎回、時に地域包括支援センター職員が参加して開催され、今回予てより依頼の町内会長の参加も得た。会議では事業所の活動状況報告が意見交換と共に行われ、サービスの質の向上に繋げる努力がなされている。又、避難訓練の同日実施や不参加家族への議事録送付等の工夫も見られる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターや市、区の介護保険課に相談させて頂いたり、状況説明をしたりして、指導頂いている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が参加し情報の共有化が図られている。生活保護に関しても担当課職員が定期的に訪問したり、同センター主催の介護施設・事業所との意見交換会や虐待研修会に職員が参加したり、利用者と一緒に「いきいき百歳体操」にも参加する等、市町との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>拘束をしないケアについて、職員とミーティングなどで確認している。昼間は施錠を行っていない。</p>	<p>ミーティング等を通して、職員は「拘束をしない」必要性を認識し、日中は玄関は施錠はせず、玄関前の廊下を開くと音がする柵や階段前には転落防止柵を設置している。又、家族の同意の下、居室の扉が開くと報知音で知らせるドアホンや食堂からモニターできるワイアレス音声ビデオモニター等の環境整備もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>基本理念（和顔愛語）をのもと、虐待等がない様に注意を払って、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な利用者の方には、活用できる様支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>丁寧に説明をし、質問を受け入れ、納得、理解して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時、あるいは電話を受けた時など、声掛けして、御意見を頂く様にしている。月1回請求書を送る時、手紙で日頃の状況を伝えている。</p>	<p>利用者の要望は、日々の会話を通じて把握し、家族とは電話連絡や面会時、介護計画更新時や運営推進会議等で管理者や職員が積極的に聴くように努めている。又、毎月請求書を送る時に利用者近況報告書も送り意見交換の場としたり、意見箱の設置もあるが苦情等は特にない。今後も意見の反映に取り組む姿勢がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>いつでも職員の意見を取り入れられる様に配慮している。</p>	<p>管理者は、毎日の申し送りや毎月の職員会議を通し、職員の意見を集約すると共に、日常業務の中で随時職員と話す機会を設け、業務上や職場関係での支援を行っている。職員の要望により、快適な入浴ケアが可能となるように浴室内すのこを安全な素材の福祉用具に取り替え、環境整備を行った経緯がある。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の意見を聞いて、可能な限り改善に努めている。家庭の事情等を聞き、可能な限り、シフトの配慮を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者、職員には、働きながら経験を積み重ねる様に努めている。可能な限り、研修等は受ける様、シフトの配慮は行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同業のネットワークに加入して、情報交換に努めている。地域包括支援センター主催の意見交換会に参加している。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人の希望などを聞いて、職員間で共有して、信頼できる環境作りに取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族の希望などを聞いて、職員間で共有する為、ケアプランに取り入れ、信頼できる環境作りに取り組んでいる。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族の希望、相談をしっかり聞き、的確に把握して対応する様、努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>職員は暮らしの中で、利用者から智恵や料理など教えて頂いたりしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人の日々の様子を見て頂いたり、状態を伝えたりして、本人と家族のコミュニケーションが取れる様に、職員が間に入って関係を支えている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族や友人に出す手紙や年賀状、暑中見舞など職員が手伝い、なじみの関係が維持出来る様に支援している。</p>	<p>「地域との絆」「気軽に訪問できる事業所作り」を大事にしており、利用者と散歩の際に近所の方と交流したり、家族等の面会があれば、その記念写真を居室に飾る様にしている。又、息子さんの法事や利用者の卒寿祝いの為の外出を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同志の関係性を把握して、席の配慮など、お互いに関わりが持てる様に、職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	手紙や電話などで連絡を取り合うなどしている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から、本人の好みや得意な事などを話題にして、本人が何をしたいのか把握している。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解する様努め、それ等の情報は職員間で共有している。遠方に住んでいて中々会えない息子さんに手紙を書こうと提案すると、一緒に書いて下さり、手紙を受け取った息子さんからお礼の電話があった。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりの経験や暮らしを把握して、役割や出番など場面作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの体調や、ペースに合わせて、日々を穏やかに過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、本人、家族の意見を取り入れ作成している。職員間で計画の内容について担当者会議を行い、見直している。</p>	<p>職員に利用者毎の担当制が敷かれ、情報収集は管理者が集約し、介護計画は管理者・計画作成担当者が本人・家族の意向や他職員の意見を踏まえ作成する。3か月毎にモニタリングを行い、計画の見直しも3か月を基本とする。好きな刺身を食べられる様、予てより家族に依頼していた事が実現したプラン例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の状態が把握出来る様に、具体的な記録をしている。情報共有しながら実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その場の状態、状況に応じて臨機応変に行動、対応する様に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の方、消防署、スーパーなどに協力して頂く様に努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>必要に応じて、協力医の往診、診察を受けている。希望されるかかりつけ医などに受診し、介助を行っている。</p>	<p>入居前の主治医の受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。週に1回夜間又は特変時に協力医・看護師の往診がある他、専門医の受診は事業所による。月1回の協力歯科医による往診や協力医療機関・施設の支援の下、サービス提供時の急変には協力医と連携して適切な医療支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は、利用者の身体状態の変化や気づきを随時医師に伝えて、適切な医療を受けられる様に支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された際には、ホームから入院先に面会訪問したり、家族に電話して、状態の把握や退院後の方向性について、家族や病院関係者と話し合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に本人、家族等に終末期の対応について、聴き取りしている。看取りを希望される場合は、医師と連携して、本人、家族の希望に添える様になっている。</p>	<p>利用者や家族の要望があれば看取りを行なう方針である。契約時に「事業所における終末期の迎え方」を書面にて確認し、重度化した際には家族・医師・管理者等で話し合い口頭による了解の下、医師の指示に従い適切な支援を行っている。看取りの際は協力医の毎日の往診や管理者の泊まり込み等で支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応など、職員同志で勉強会を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、夜間想定訓練を行っている。避難誘導マニュアルを基に実施している。スプリンクラー、自動通報装置の設置、又、食料、水等を備蓄、整備している。</p>	<p>消防署の立会いの下、年2回の避難訓練を夜間を想定し利用者も参加して行っている。内1回は運営推進会議の開催日に会議参加者も見学して行われている。災害時における地域との協力体制についても地域自主防災会の「防災台帳」に登録され、管理者は町内会の定期総会に毎年出席して災害時の協力を要請している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員会議において徹底している。日々の会話で優しい言葉をかける様になっている。	利用者に対する言葉かけも「和顔愛語」をモットーに否定的な言語は控えるが、画一的な対応はせず、寛いだ雰囲気での会話を楽しむため、利用者・家族の要望があれば下の名前で呼ぶ事もある。又、契約時には約款の「秘密保持・個人情報の保護」に基づいて留意してほしい事項（写真・表札等）を相互確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	あらゆる場面で、本人の希望に添える様に、「どうしたらいい？」の声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、日々生活して頂ける様に支援している。出来る限り、本人の希望を聞いて、生活して頂く様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人好みの衣服や、格好が出来る様、自分で服を選んで頂く様にしている。化粧品など、本人の希望により購入している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事のメニューを、入居者と相談して決めたりしている。野菜の皮むきなど、手伝ってもらっている。誕生日には、好みの献立を用意したり、ケーキでお祝いしている。	献立は利用者と相談しながら決め、三食手作りとしている。季節の行事食を大事にし、雛祭りのちらし寿司や利用者と一緒に丸めた餅で雑煮等を楽しんでいる。菜園で収穫した野菜が食卓に上ったり、利用者は下準備等、役割に応じた手伝いをしている。又、全員参加の花見で味わうパック詰めのおやつも好評である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事の栄養バランスなどに配慮して調理している。水分や食事の摂取量は記録に残し、把握、管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>定期的に歯科医、衛生士の訪問を受け、検診、口腔ケア等して頂き、スタッフにも助言、指導して頂いている。食後、うがいや歯磨きなど、個人個人に応じて支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導、排泄介助など支援している。</p>	<p>排泄誘導表等により各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を基本としている。頸椎損傷により紙おむつで入居となった利用者が布パンツとパッドに改善した自立支援にも取り組んでいる。足元の不安定な方にポータブルトイレ、夜間排泄時の転倒防止のためセンサー・マットの導入等、環境整備もなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個人個人に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>植物繊維を多く含む食品を食事に取り入れたり、水分補給、体操するなど、便秘予防の対応をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個人個人に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時には、一人ひとりの時間をとり、入浴して頂いている。声掛けしながら背中を流したり、シャワーをかけたり支援している。</p>	<p>週2回の午前浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせて柔軟に対応していたが、一昨年から入浴日を週4回に増やし、1回の人数を半分に抑えてゆっくり入浴出来る様に改善した。又、職員の要望で快適な入浴が可能となるように浴室内のこを安全な素材の福祉用具に取り替え、環境整備を行った経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースに合わせて休憩したり、活動したりされる様に支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師の指導の下、確実な服薬支援のため、再度、服薬前に氏名を確認の上、服薬してもらっている。症状の変化にも注意している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者それぞれの得意とするもの、出来る事など把握して、役割や楽しみを持って生活出来る様に支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>気候の良い時は、日光浴、散歩、買物などに出掛ける様にしている。週1回いきいき100才体操に参加している。</p>	<p>事業所周辺が坂道のため日常的な外出は難しいが、希望により少人数で日光浴や散歩や買物をする事もある。季節行事としてのお花見や毎週の町内会いきいき百歳体操等、普段は行けない様な所へ外出し「非日常」を楽しむこともある。利用者の加齢や職員体制等の課題はあるが、個別外出支援にも取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>利用者、家族の希望に応じて支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族や友人に手紙、ハガキ、電話など、希望に応じて支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭のような雰囲気、落ち着いて過ごせる様にしている。居間、廊下にソファを置いて、ゆっくりとくつろげる空間作りに配慮している。</p>	<p>フロアは窓から明るい光が差し込む穏やかな空間であり、節分・七夕など季節行事毎に利用者で作った塗り絵・貼り絵等の「壁掛け作品」で季節を感じる。食事時には賑やかな会話・いい香りの食を楽しむ「五感を大切にするケア」に取り組んでいる。利用者は洗濯畳みも手伝い、家庭のような生活感覚で暮らしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>好きな場所で、自由に過ごせる様に、ソファを居間や廊下に置いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅で使われていた馴染みの物など、持って来て頂いて、安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。部屋作りも、家族と本人でもらっている。</p>	<p>居室は少し広めの全室畳の部屋でベッド・エアコン・押入れを設置している。居室には、テレビ等利用者が使い慣れた物をそのまま持ってきてもらうと共に仏壇・楽器等、好みの物に囲まれ居心地よく過ごせる様にしている。なお、安全配慮のため、居室の扉が開くと報知音で知らせるドアホンを設置する事もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの身体状態に応じて、安全に過ごして頂ける様に、手摺等を設置したり、階段では昇降機を設置して、利用を支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム福寿草

作成日 平成30年11月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	基本理念「和顔愛語」に対する取組み方	小さな事柄を少しずつ積み上げて、笑い声の絶えないホームにする。	職員に小さな目標を立ててもらい、その目標達成に向けて、取組み、反省し、次へのステップアップを目指す。	1年間
2	4	運営推進会議に出席する方が限られている。もっと様々な方の意見が聞きたい	家族の方、地域の方、等、色々多数の方々の参加を要請し、御意見を聞く様にする。	誕生日会や、避難訓練等の行事を組合わせて、多方面の方をお誘いする。	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。